

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都		
所在地	島根県益田市美都町山本イ2番地3 (電話) 0856-52-7081		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月30日	評価確定日	形成21年10月19日

## 【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月6日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤16人, 非常勤3人, 常勤換算13,4人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1~2階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	380円	おやつ	0円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	5名	要介護2	7名			
要介護3	5名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	75歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	林医院 松本医院 松ヶ丘病院 大畑医院 中島歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の話をよく聞き、希望を尊重した個別ケアに力を入れているホームである。昨年10月に1ユニット増設され、隣接した民家を借り受けて利用者の自由な生活の支援に取り組んでいる。職員は毎月独自の評価表に基づき利用者主体のケアを行っているか振り返り、人生の最終章に幸せを感じて過ごしてもらいたいと利用者向き合っている。ホーム前にバス停があり、利用者はお気に入りの玄関の椅子に座って乗り降りする中学生を眺めたり、美容室や買い物に気軽に出かける支援を受け、自分のペースで生活している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「同業者との交流」「災害時の備蓄」については改善されている。「鍵をかけないケア」は鍵をかけることの弊害はよく理解しているが、具体的な改善策が見つかっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し全職員で話し合いながら自己評価を行った。2階ユニットは初めての取り組みだったが、1階ユニット同様全職員で取り組んだ。職員はケアの振り返りになったと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの近況や取り組み、家族アンケート結果、ヒヤリハット事例などを報告し意見交換をしている。災害時の対策について出席者から積極的な意見が出され、地域の協力員を増やすことが検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や家族会で意見を聞いたり、年1回、法人として家族アンケートを実施し意見を運営に反映させている。運営推進会議への家族の出席が減ってきている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として自治会に加入し、地域行事や老人会の行事に参加している。資源ゴミ収集日の当番の時は利用者と一緒に参加し地域の人と交流している。地域の人の協力があり温かく見守られている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内で理念の検討を重ね、「利用者が顔なじみの人たちとの関わりを大事にして暮らす」ことを盛り込んだ開設当初からの理念を継続して掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、日々のミーティングや、毎月自己評価表に基づき理念に沿ったケアをしているか振り返っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入し、地域や老人会の行事に参加したり、資源ゴミの収集時の当番役をするなど、自然な形で交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	2階ユニットは開設1年目で初めての取り組みだったが、2ユニット共に全職員で話し合いながら取り組み、ケアの振り返りができたと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、家族アンケート結果、ヒヤリハット事例などを報告し活発に意見交換している。災害時の安全な避難のための提案や老人会の活動への参加の提案があり検討されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長や職員が地域版の便りを持参したり、成年後見制度利用についての相談をするなど日常的に連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や、毎月、写真入りの便りで一人ひとりの暮らし振りを詳しく伝えたり、定期的に法人全体の便りを送っている。健康状態は随時電話でも報告している。	○	さらに積極的に記録物を開示し、家族と情報を共有されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として年1回家族アンケートを実施し意見を検討し改善に取り組んでいる。家族会があり家族同士が交流する機会があるが、運営推進会議への参加が少ない。	○	運営推進会議に家族が多数参加できるような工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は行っていない。職員のチームワークを大切に離職防止に努めている。新人職員には担当者をつけ指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修にできるだけ参加するよう配慮している。法人としての研修システムが確立されていて、段階に応じて研修が受けられるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホームの交流研修も今年で2年目となり、職員は交替で参加し学んだことを持ち帰りケアに活かしている。	○	同業者と相互研修を行う中で、一人ひとりの職員がひなたぼっこでの取り組みを積極的に伝え、共にサービスの向上に努められることを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームを見学してもらい、体験入居を経て納得してからサービスを開始している。状況によっては家族に協力をしてもらい面会の機会を増やすなど配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意な分野で力が発揮できるよう支援している。利用者が職員の背中をさすりいたわってくれるなど互いに支えあう関係ができていく。新しいユニットではこれからである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「先ず本人に聞くこと」を心がけ、言葉かけを工夫し思いを引き出している。根気よく話しかける中でオセロゲームが好きなことがわかった利用者があり楽しみごととして支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には家族にも参加してもらい、利用者、家族の意見を反映させた内容で作成している。計画内容は具体的で、職員のケアの統一を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、計画に沿って評価、見直しをしている。状況に変化がある時は、家族と共に新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり利用者の健康管理を行っている。受診支援や外泊など、希望や状況に合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿った医師の受診支援をしている。定期的な往診や他科受診が必要な時は希望の医療機関への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針について入居時に説明している。利用者や家族の意向を聞き、状況に応じた対応をしたいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入浴や排泄のケアを行う時、利用者の尊厳を傷つけないよう配慮している。利用者の行為が他の人に不快な印象を与え非難されそうな時は、職員同士がさりげなくカバーしあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間、過ごし方など、利用者の希望やペースに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りが生きがいの利用者もあり、献立を相談しながら一緒に準備や片付けをしている。職員全員が同じテーブルを囲み、さりげなく援助しながら穏やかな雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や生活習慣を尊重した支援を行い、毎日入浴できる体制がある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや掃除、草抜き、手作業など、得意なことを活かして生活できるよう支援し、自分で刺身を作って晩酌を楽しむ人もある。歌ったりボール投げなど楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物や散歩、美容室、ドライブなどに出かけている。2階ユニットは毎日借家「美都の家」に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害はよく理解しているが、状況によっては一時的に施錠する時がある。2階ユニットは階段など構造上危険なため日中も施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	土砂災害の警戒区域に入っていて、避難方法や持ち出し物品などの対策を立てている。消防署、地域の協力を得て定期的に訓練し、自主訓練も行っている。備蓄もある。	○	特に2階からの避難方法には不安があるので、積極的に訓練を重ねていただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、利用者に合わせて刻みやとろみ、ミキサー食にし対応している。1回の摂取量の少ない人には回数を増やして支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に座って外を眺めたり、居間の配置を工夫し思い思いに過ごせる場所が多く作ってある。浴槽は家庭的なものに改造された。2階ユニットは気分転換が図れるようベランダを設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類や写真、カセットなどを持ち込み、自分で作ったピクチャーパズルなどを飾って利用者に合わせた居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。